



吉井源太没後110年記念企画展

紙の交流・源太と日本の和紙産地

— 明治から始まった絆を、新たに結ぶ —

高知の紙産業発展の礎を築いた製紙家・吉井源太。明治時代になって、殖産興業の波に乗り、洋紙の国内生産が始まるなか、新しい和紙の開発も急務でした。各地の和紙産地は土佐和紙の先進技術に注目します。吉井源太らは、製紙の方法や道具(改良による量産化)、原料生産などの新技術を伝習指導するため、他産地へ長期滞在したり、伊野へ受け入れています。こうした紙産地は30の府県に及びました。その交流は大変深く、有意義なものが多く、大きな足跡を残しています。

企画展に伴い、吉井源太が残した記録などから、島根県・鳥取県・新潟県・岐阜県・愛媛県の産地と新たに交流し、「紙のまち いの町」にて「紙のまち交流フォーラム INO2018」を開催します。各産地が抱える課題や取り組みを話し合い、未来に向けてビジョンを掲げ、明治から始まった絆を、新たに結びます。



2018 10/6 (SAT) → 11/11 (SUN)

会場 いの町 紙の博物館 <http://kamihaku.com/>
開館時間 9:00~17:00 月曜休館(祝日の場合は翌日休館)
入場料 一般500円(400円) 小・中・高校生100円(80円)
※()は団体料金。65歳以上の方は年齢確認できるもの提示で250円

10月20日(土)
13:30~17:00

紙のまち交流フォーラム INO 2018

- 基調講演 村上 弥生氏 [本展監修/香川大学特命講師・博士(農学)]
- パネルディスカッション [6産地からパネリスト参加]

会場 いの町役場本庁舎 いのホール[吾川郡いの町1700-1]



〒781-2103
高知県吾川郡いの町幸町110-1
TEL.088-893-0886
FAX.088-893-0887
高知市中心部から車で約30分
伊野ICから車で約10分
JR伊野駅から徒歩約10分